教師の自尊感情および教育実践に関するビリーフについて

—日本語版 TALIS のパイロット調査を通して—

富岡比呂子

(創価大学)

キーワード：自尊感情、教育実践のビリーフ、TALIS(教授・学習国際調査)

Teacher's self-esteem and educational beliefs: From a pilot study of the Japanese version of TALIS

Hiroko I. TOMIOKA

(Soka University)

Key Words: self-esteem, educational belief, TALIS (Teaching and Learning International Survey)

目 的

本調査の目的は、教師自尊感情尺度、自己効力感尺度、および TALIS 尺度の日本語版を用いて、教師の自己に対する意識と、教授・学習に関するビリーフおよび教師としての職能開発活動 (PD) への意識を把握し、それらの関連性を分析することである。3 つの尺度について、性別や年齢による差がみられるのかについても検討する。

方 法

調査対象は小学校の教員 12 名。基本的な属性のデータとして「性別」「年齢」「教員になってからの年数」「現在の勤務校での年数」を調べた。次に以下の 3 つの尺度から数問ずつ抽出して使用した。回答形式は「非常にそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「まったく思わない」の 4 択式であった。

① 教師自尊感情尺度 (田村・石隈、2002)

こちらは、「教師としての自己」をどのように評価するかについての質問で、自己の能力や素質に対する質問と、自己に対する肯定的評価を問う質問を 2 問抽出した。

② 一般性セルフ・エフィカシー尺度 (坂野・東條、1993)

この尺度は自己効力感を測る尺度であり、行動の積極性及び自己の能力の社会的位置づけに関する質問を 4 問抽出した。

③ TALIS (OECD, 2009)

TALIS とは、教授・学習国際調査 (TALIS : Teaching and Learning International Survey) と呼ばれ、OECD (経済協力開発機構) によって開発された教師や校長向けの学校現場における教授・学習についての国際的な調査のひとつである。この尺度から合計 20 問抽出した。1. 教授と学習に対するビリーフ (9 問) では、教師としての役割や、児童の自発的な学習についてどう考えるかについての質問、また知識の教授についての考え、教室環境についての考えについての質問が含まれている。2. 学校生活の自己評価 (4 問) については、自分の担任クラスの児童との関係を問う項目や、教師が地域社会において受ける尊敬の度合いについての質問で構成されている。3. 教師としての PD (professional development=職能開発) 活動への意識 (7 問) は、指導方法や ICT スキル、児童のケアや学級経営などについての PD 活動について、どの程度必要性を感じているかについての質問である。

結 果・考 察

3 つの尺度の性別と年齢の主効果と交互作用をみるために、性別と年代の 2×4 の 2 要因分散分析をおこなった。性別の主効果については、TALIS の「1. 教授と学習に関するビリーフ」の設問 7 番にみられた。これは「効果的な学びのためには、静かな (私語の少ない) 教室の方が望ましい」という問いであるが、女性の値が男性よりも有意に高く ($F(1,10)=2.23, p<.05$)、女性教師の方が静かな教室の方が好ましいと感じていることを示していた。年齢の主効果については、TALIS の「教師としての役割のうちのひとつは、児童自身の学びを促進することである」($F(3,10)=9.33, p<.001$) と、同じく TALIS の「この地域のコミュニティでは、教師はおおむね尊敬されていると思う」($F(3,10)=4.06, p<.01$) にみられた。Tukey の HSD 法による年代別の多重比較を行うと、2 問とも 20 代と 40 代の間、30 代と 40 代の間に有意な差がみられ、どちらも 40 代の得点が低いことが示された。

下位尺度間の関連については、「自尊感情」と「児童との関係」の間に強い正の相関 ($r=.76$) がみられ、高い自尊感情を持つ教師は、子どもとの関係を肯定的にとらえる傾向があることが示唆された。また、「PD 活動への意識」尺度の「PD 自己」と「PD 児童」との間 ($r=.70$)、「PD 経営」と「PD 児童」との間 ($r=.63$) に有意な正の相関がみられ、これらの下位尺度が互いに関連しあっていることが示された。加えて、尺度の信頼性はおおむね高く、妥当性も確認できたため、日本語版の TALIS が日本の文脈でもある程度適応可能なことが明らかになった。最後に本パイロット調査をふまえての今後の研究の方向性、次回以降の調査への課題について述べる。

引用文献

OECD (2009). *Creating Effective Teaching and Learning Environments: First Results from TALIS*, OECD Publishing.

坂野雄二・東條光彦(1993). セルフ・エフィカシー尺度 上里一郎監修 心理アセスメントハンドブック, 西村書店.

田村修一・石隈利紀 (2002). 中学校教師の被援助志向性と自尊感情の関連 教育心理学研究, 51, 291-300.